

地域と融合した教育研究の取組み

★地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

平成27年度から、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として実施する事業です。尚、本事業は県内大学、高等専門学校とともに大阪府内の大学及び和歌山県、企業等の連携により「紀の国大学」を構築しています。詳しくはHPをご覧ください。

【紀の国大学ホームページ <http://kinokuni-u.jp/>】

◆地域インターンシップ（LIP）

和歌山県内の市町村等の協力のもと、地域が抱える課題を学生が調査する取組み。学生は自らの関心や問題意識にもとづいてグループを形成し、各地域を訪問。数日間、現地に滞在し、観光施設の視察や就業体験、施設の職員や利用者への聞き取り、宿泊施設や農家民泊のモニター、地域の農業、商業、工業の関係者や住民との意見交換会など、さまざまな調査活動に取り組んでいます。

▲へき地・複式教育実習、小規模校活性化支援事業

県内各地の小規模学校との連携により、学生の教育実践力向上に加えて、地域連携の重要性（地域における学校の役割、学校と地域が連携して子どもを育てる意義等）を学ぶ滞在型（主にホームステイ型）教育実習・体験活動です。また、学生の学びに加え、運動会や文化祭支援など、学生が学校教育を通じて地域に貢献する活動も行っています。

●学内の地域連携機関（産学連携イノベーションセンター、災害科学教育研究センター、食農総合研究所）等による地域との連携事業

産学連携イノベーションセンター

地元企業等との連携の窓口として、研究成果の提供や共同での研究開発等を行っています。



TEL (073) 457-7575

E-mail:renkei@center.wakayama-u.ac.jp

災害科学教育研究センター

和歌山県の自治体・企業等と連携しながら、南海トラフなどの地震や台風などの災害に備え、災害に強いまちづくりなど地域防災力の向上のための取組を行っています。

TEL (073) 457-7558

E-mail:bousai@center.wakayama-u.ac.jp

食農総合研究所

和歌山圏域を中心に、食と農林水産業の分野の研究活動を通じて、地域の産業の発展を支援しています。

TEL (073) 457-7126

E-mail:syokuno@center.wakayama-u.ac.jp

和歌山大学の地域と融合した教育研究の実践

和歌山大学は、高野・熊野世界文化遺産など豊かな歴史と環境に育まれた和歌山県唯一の国立総合大学として、学術文化の中心としての使命と役割を担い、「地域と融合」し、地域の発展に寄与する学術研究を推進し、地域創生を牽引する人材を育成しています。

その実現のために、次の目標を掲げています。

1. 地域の企業、自治体、団体と連携した実践的な課題に触れる「地域と融合した深い学び」により、柔軟な社会性と対人関係力を養い、地域に誇りを持ち、地域社会に貢献する人材を輩出する。
2. 和歌山圏域の最も重要な財産である農産物、食品の付加価値を高め、農林業と食、健康、環境に関するグリーンイノベーションプログラムを推進する。
3. 人口減少、高齢化の課題解決、防災・減災に寄与するプロジェクトに地域社会とともに取り組む。

各学部において、それぞれの分野や教育の特色を活かした取組みを実践しています。

【教育学部】

へき地・複式教育実習、小規模校活性化支援事業、小規模校実習（教職大学院）、教育ボランティアなどで地域の教育課題に取り組み、地域に根差した教員養成を行っています。

【経済学部】

自治体等と連携して、初年次に実施する地域の歴史・文化・生活に触れる研修や「地域志向科目」、「地域連携科目」を充実させています。

【システム工学部】

和歌山県を中心とした中小企業への技術支援や通信ネットワークや画像計測技術などの工学技術を活用した防災・減災や木材資源のナノカーボン化などを進めています。

【観光学部】

地域インターンシップ（LIP）の拡充を通じた地域資源の発掘・利活用、さらには「域学連携」推進と地域課題解決に向けた取組みを行っています。

和歌山大学の和歌山県下をフィールドとした教育研究の事例

●真田幸村由来酒・日本酒「幸村出陣」、焼酎「幸村好」のラベルデザイン（和歌山市）

和歌山県酒造組合、酒販協同組合連合会と連携し、真田幸村由来酒・日本酒「幸村出陣」、焼酎「幸村好」のラベルデザインを製作し、商品化がなされました。



★高野山麓はしもとインターカレッジ・コンペティション（橋本市）

橋本市が主催する高野山麓はしもとインターカレッジ・コンペティション（地域内だけでは解決できない課題の解決に向けて、大学の持つ専門的知識や学生の視点を活用しながら地域活性化を図るコンペ）に参加し、特産品のブランド化や新商品の開発、地場産業の振興、農林業の再生を推進する提案を行っています。



★家庭用品イノベーション（海南市）

海南市の地場産業であるタワシをはじめとした家庭用品（台所用品、風呂用品）をテーマに、家庭用品メーカーや自治体、商工会議所等との連携のもと、インターンシップ等により企画・開発の基礎を実践的に学び、地場産業を支える後継者の育成等に取り組んでいます。



●有田みかんを大量・安定的生産・販売するための「見える化」「見る化」技術の開発（有田市）

日本一のみかん産地である有田市において、3次元センサーを用いた剪定、摘果の手法、みかんの育成状況の測定を通じた栽培システムを開発することで、高品質なみかんを安定して生産するための取り組みを行っています。



▲へき地・複式教育実習（みなべ町立清川小学校）

児童生徒数約40人のみなべ町立清川小学校において、教育実習を行いました。授業や放課後の「ふれあいルーム」におけるこどもとの触れあいを通じて、「授業づくり」や「子どもとのコミュニケーションづくり」を意識し取り組むことができました。また、地域の特産品の「梅」や「備長炭」について、梅づくり体験や備長炭の窯出しや窯入れ体験も行い「学校と地域をつなぐ」ことについての理解も得ることができました。



●梅酢ポリフェノールのかぜ症候群・インフルエンザの予防に関する研究（田辺市）

紀州田辺うめ振興協議会からの委託により、和歌山県立医科大学との連携で、梅酢ポリフェノールのかぜ症候群・インフルエンザの予防に関して臨床実験を実施しました。梅酢ポリフェノールは、インフルエンザウイルスの増殖を抑制し、感染性を消す作用があり、人体への安全性も高く、すでに大量に製造する方法が確立されており、うがい薬、機能性食品などへの利用が考えられています。



●防災リーダー養成講座（那智勝浦町）

那智勝浦町教育委員会との連携のもと、小中学校をはじめ地域の方々に災害時にライフラインが破壊され電気やガスが使用できない時に熱源を確保しお湯を沸かすために開発された「薪とペール缶コンロ」を使った昼食づくりや、避難所生活でのプライバシーを確保するための「間仕切り（パーティション）設置」の体験学習に取り組みました。



◆学生との協働による継続的な棚田保全活動体制の構築（有田川町）

有田川町沿地区において、学生と地域が協働して、稲作や特産品である山椒の収穫支援を通じて、棚田・段々畑の保全に取り組んでいます。

